

農業振興に関するアンケート調査
結果報告書



GOSEN CITY

令和元年 7 月

五泉市農林課

目 次

	頁
I 調査概要	1
II 調査結果	4
1. 農業後継者について	5
2. 耕作農地の面積について	6
3. 耕作放棄地について	7
(1) 耕作放棄地の有無	7
(2) 耕作していない理由	8
4. 農地の貸付について	9
5. 将来の農業経営について	10
(1) 将来の農業経営及び時期	10
(2) 規模拡大をするための方法	11
6. ほ場整備について	12
7. 担い手について	13
8. 農業施策について	16
III 調査票様式	20

I 調查概要

1 調査の目的

五泉市の基幹的農業従事者の高齢化が進み担い手不足の現状を考えると、今後、耕作放棄地の増加などによる地域農業の衰退が懸念されるため、市内農業者の現状や 5 年後 10 年後といった近い将来、農業経営をどのようにしていきたいと考えているか意向を把握することを目的に実施した。

2 調査の項目

- (1) 現在の農業経営の状況（性別、年齢、農家組合、経営種類、農業従事者数、農業後継者の有無、耕作面積）
- (2) 耕作放棄地について
- (3) 農地貸付の意向について
- (4) 将来の農業経営の意向について
- (5) 規模拡大について
- (6) ほ場整備について
- (7) 担い手について
- (8) 農業施策について

3 調査の設計

- (1) 調査地域：五泉市全域
- (2) 調査対象：農家組合に加入している世帯
- (3) 標本数：4,027 世帯
- (4) 調査方法：農家組合長を通じ配布・回収または郵送（配布・回収）による自記式アンケート
- (5) 調査期間：平成 31 年 2 月 8 日（金）～3 月 8 日（金）

4 集計・分析にあたって

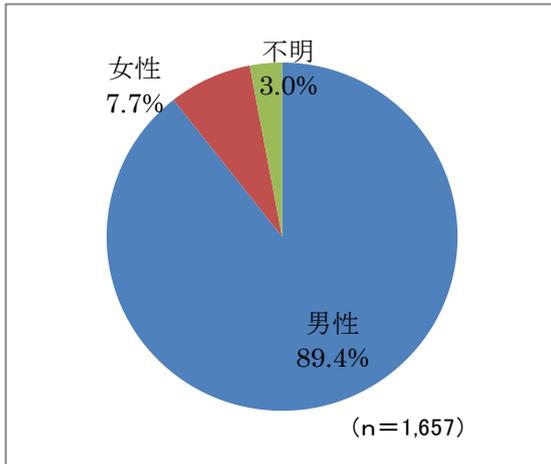
- (1) 図表中の「n（number of cases の略）」とは、回答者総数（該当者質問では該当者数）のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- (2) 平成 25 年に行った農業振興アンケートと同じ質問若しくは類似した質問があり、比較が出来る場合には、前回との比較を行った。
- (3) 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。

5 回収結果

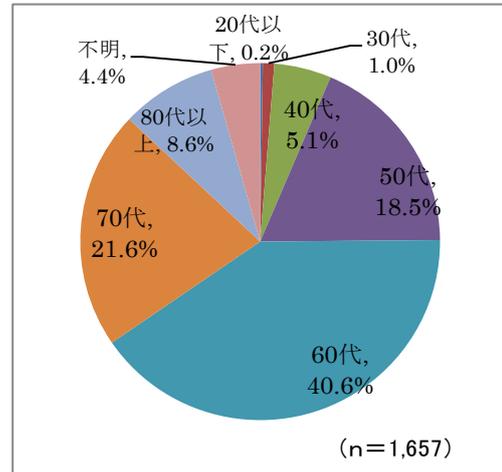
有効回収数 1,657 世帯（有効回収率 41.1%）

6 回答者の構成

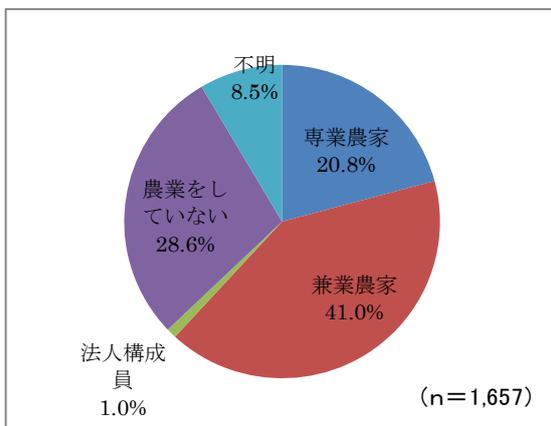
◆ 性別



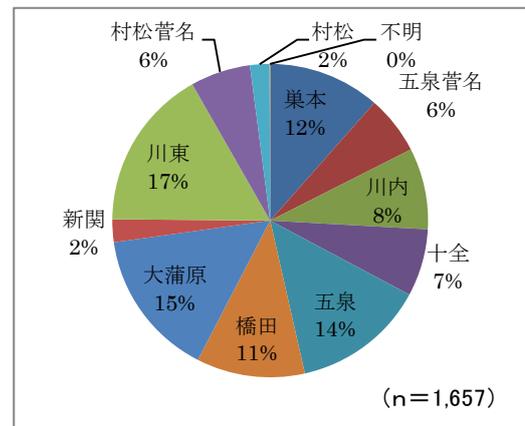
◆ 年齢



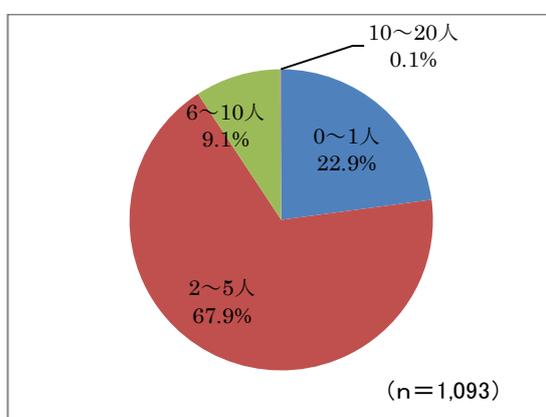
◆ 経営種類



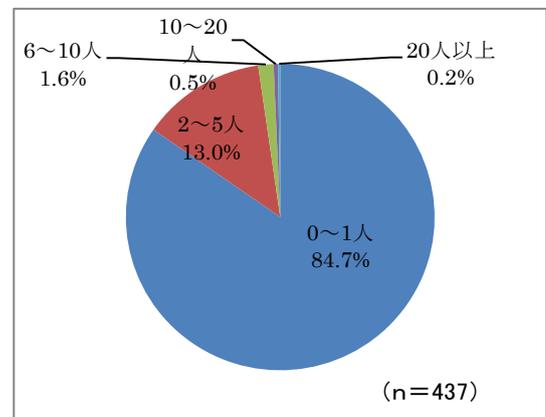
◆ 農家組合



◆ 農業従事者数（家族）



◆ 農業従事者数（雇用者）



Ⅱ 調査結果

1. 農業後継者について

問2. 現在、または近い将来、担い手となる農業後継者はいますか。

7割強が「農業後継者がいない」

【全体結果】

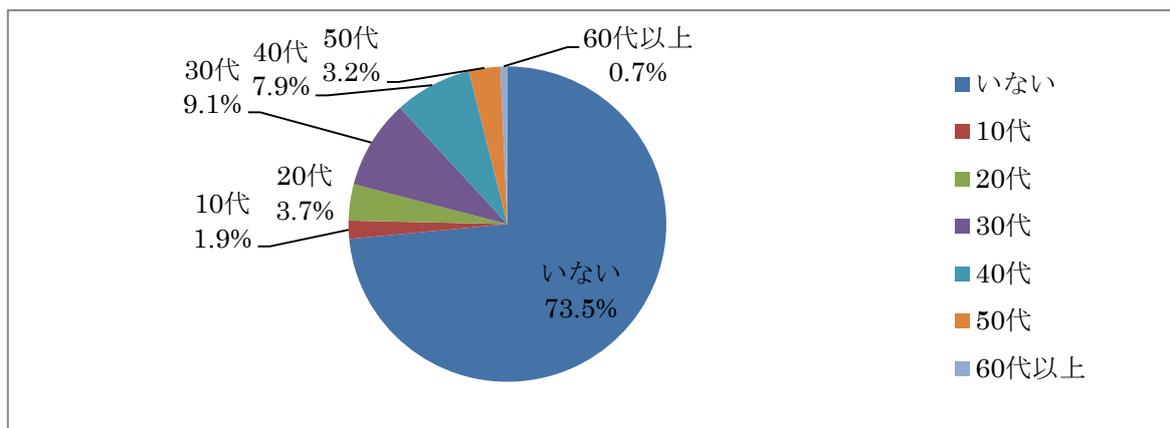
「いない」と回答したのが7割強である。

一方、後継者がいる割合3割のうち、一番多い年代が「30代」であり、ついで「40代」となり、2割弱となる。

【前回との比較】

前回の設問では、「後継者のめどはついていない」が7割半である。若干の減少はあるもののほぼ横ばいである。「後継者のめどはついていない」は2割半であるが、前回設問では年代は不明である。

回答	人数	割合
いない	829	73.5%
10代	21	1.9%
20代	42	3.7%
30代	103	9.1%
40代	89	7.9%
50代	36	3.2%
60代以上	8	0.71%
合計	1,128	



2. 耕作農地の面積について

問3. あなたが耕作している農地の面積はどれくらいですか。

所有地が借入地の倍以上であり、その面積は1ha～2.5haが4割半

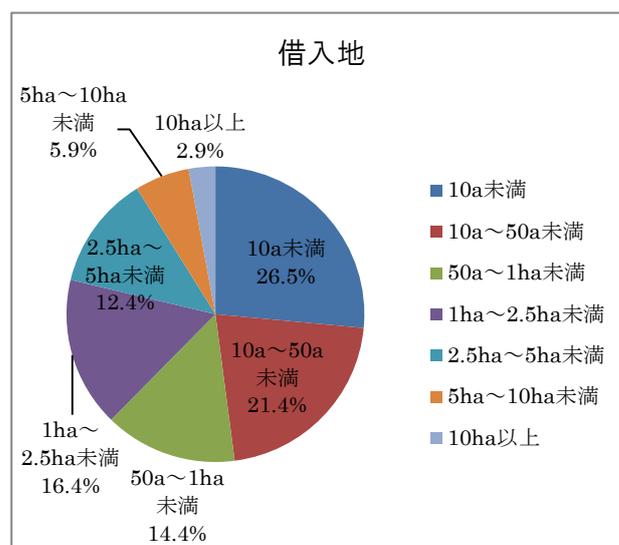
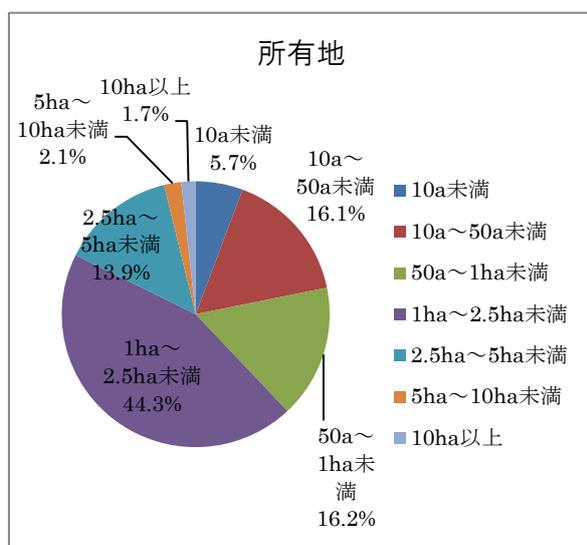
【全体結果】

耕作している土地は借入地に比べ、所有地が倍以上であった。

所有地の面積の割合では1ha～2.5ha未満が4割半であり、50a～1ha、10a～50aが次に続きそれぞれ約1割半となる。

借入地の割合で一番多かった面積は10a未満で約2割半である。

回答	所有地		借入地	
	件数	割合	件数	割合
10a未満	69	5.7%	147	26.5%
10a～50a未満	195	16.1%	119	21.4%
50a～1ha未満	196	16.2%	80	14.4%
1ha～2.5ha未満	537	44.3%	91	16.4%
2.5ha～5ha未満	168	13.9%	69	12.4%
5ha～10ha未満	25	2.1%	33	5.9%
10ha以上	21	1.7%	16	2.9%
合計	1,211		555	



3. 耕作放棄地について

(1) 耕作放棄地の有無

問4-1 あなたが耕作している農地の中で、過去1年以上作付せずに今後も耕作する予定のない農地はありますか。

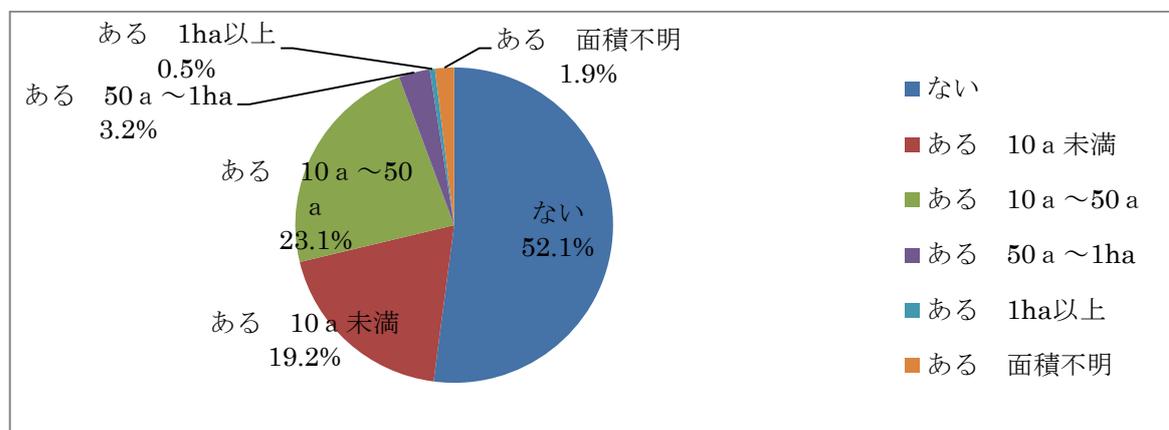
約半数で耕作放棄地が「ある」

【全体結果】

回答数は全体の約7割弱であったが、約半数で耕作放棄地（過去1年以上作付けをせず、今後も作付けする意思のない土地）があると回答した。

耕作放棄地の面積としては、10a～50aと答えた人が2割強となった。

回答	人数	割合
ない	592	52.1%
ある 10a未満	218	19.2%
ある 10a～50a	263	23.1%
ある 50a～1ha	36	3.2%
ある 1ha以上	6	0.5%
ある 面積不明	22	1.9%
合計	1,137	



(2) 耕作していない理由

問 4-2 耕作していない理由をお答えください。(複数回答あり)

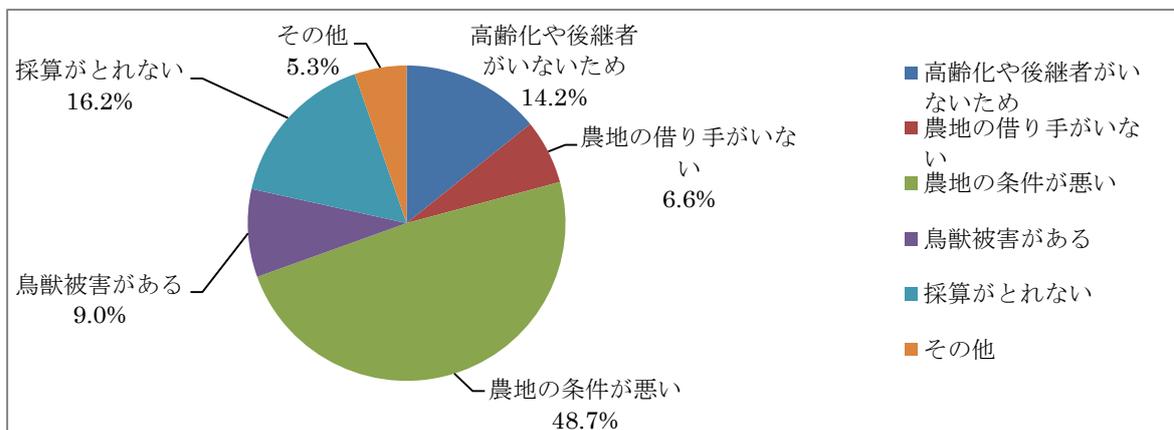
耕作放棄地の主な理由は「条件の悪さ」

【全体結果】

回答した人の約半数は「農地の条件が悪い」と答えた。農地条件の悪さの中には、災害により通路が復旧しなかった、水利の確保が難しい、機械が入らないなどの意見が聞かれた。

次いで、「採算が取れない」、「高齢化や後継者がいない為」と続き約 1 割半であった。その他の意見の中では生産調整である、別の用途に利用しているなどであった。

回答	人数	割合
高齢化や後継者がいないため	118	14.2%
農地の借り手がない	55	6.6%
農地の条件が悪い	405	48.7%
鳥獣被害がある	75	9.0%
採算がとれない	135	16.2%
その他	44	5.3%
合計	832	



4. 農地の貸付について

問5 あなたが所有する農地の中で、他の農業者に貸したい農地はありますか。

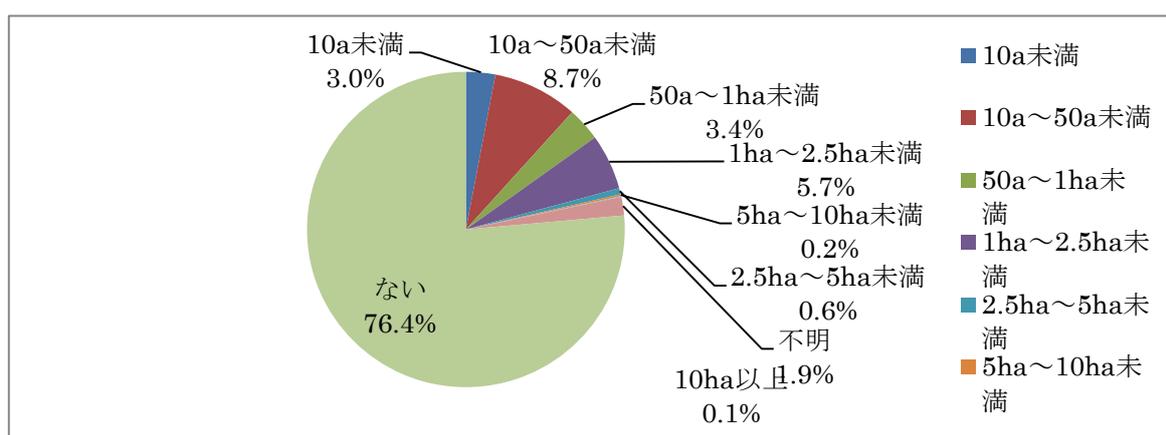
7割半で貸したい農地は「ない」

【全体結果】

回答数は全体の6割半ほどであるが、その7割半は他の農業者に貸したい農地はないと回答した。

他の農業者に貸したい農地の面積として最も多かったのは10a～50a未満であったが、1割弱である。

回答	貸付希望面積	人数	割合
ある	総数	261	23.6%
	10a未満	33	3.0%
	10a～50a未満	96	8.7%
	50a～1ha未満	38	3.4%
	1ha～2.5ha未満	63	5.7%
	2.5ha～5ha未満	7	0.6%
	5ha～10ha未満	2	0.2%
	10ha以上	1	0.1%
	不明	21	1.9%
ない		846	76.4%
合計		1,107	



5. 将来の農業経営について

(1) 将来の農業経営及び時期

問 6 あなたは自分の農業経営を将来どのようにしたいと考えていますか。また、その時期はいつ頃を予定していますか。

『現状維持』が約半数

【全体結果】

回答数は全体の6割程度であるが、その半数は「現状維持」と回答した。

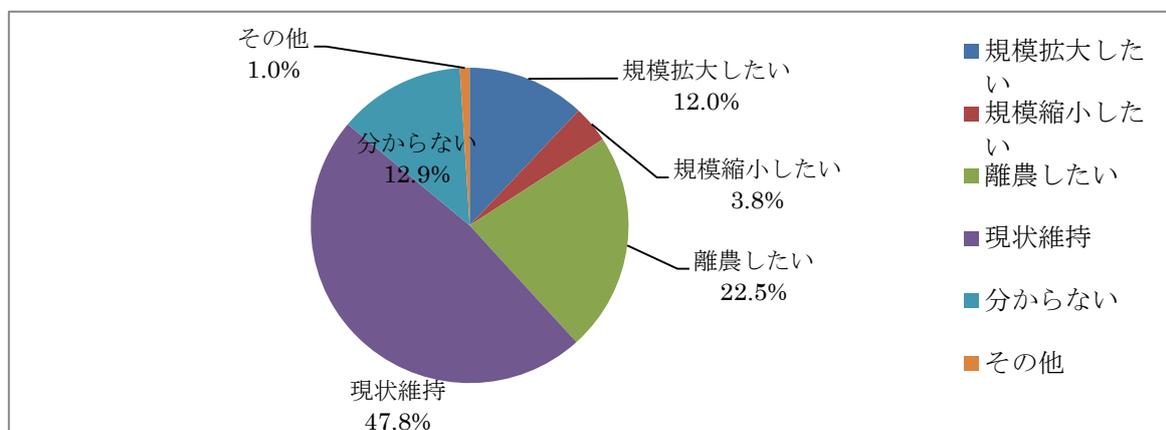
以下、「離農したい」が2割となり、「分からない」、「規模拡大したい」と続く。

規模縮小したい人については時期の大きな差はなかったものの、規模拡大したいと答えた人は6割が1～3年後、離農したいと答えた人は1年～3年後、5年程先がほぼ同数であった。

【前回との比較】

前回も「現状維持」が最も多かったが、割合は11パーセントほど減少した。1～2パーセントほどではあるが、「規模拡大」が増加し、「規模縮小」が減少した。「離農したい」は前回と同割合であった。前は「分からない」「その他」の設問はなかった。

回答	人数	割合	時期の内訳				
			1～3年後	5年程先	10年程先	未定	時期不明
規模拡大したい	121	12.0%	76	20	9	9	7
規模縮小したい	38	3.8%	9	12	12	4	1
離農したい	226	22.5%	53	58	31	54	30
現状維持	481	47.8%					
分からない	130	12.9%					
その他	10	1.0%					
合計	1006						



(2) 規模拡大をするための方法

問 7 規模拡大するための方法についてお答えください。(問 6 で「規模拡大したい」と回答した人)

規模拡大したい人のほぼ 9 割が「農地を借りたい」

【全体結果】

農地を借りたいと答えた人の内、「農地を借りたい」、「両方」と答えたひとは 9 割となる。

借りたい場合の希望小作料は 1 万 5 千円と答えた人が最も多く、その他、1 反 1 俵等の答えもあった。

買いたい人の場合は 20 万円と答えた人が最も多かった。

回答	人数	割合
農地を買いたい	15	12.0%
農地を借りたい	93	74.4%
両方	17	13.6%
合計	125	

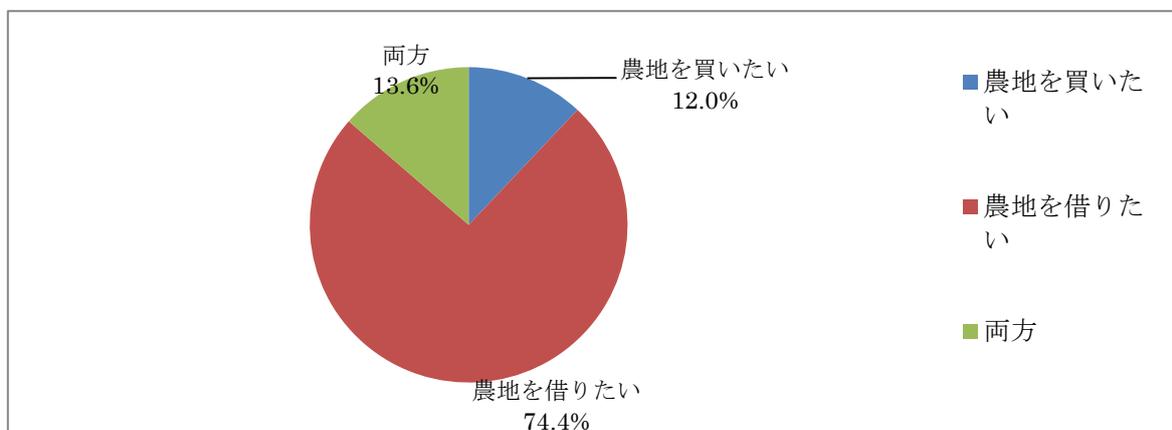
※単位 10a あたり

買いたい場合の購入希望金額

10 万円以下	10 万円以上 30 万円未満	30 万円以上 50 万円未満	50 万円以上 80 万円未満	80 万円以上
1	10	8	6	2

借りたい場合の希望小作料

1 万円未満	1 万円以上 3 万円未満	3 万円以上 5 万円未満
4	78	2



6. ほ場整備について

問8 あなたは、圃場整備をしたいと思いますか。

「希望しない」が7割弱

【全体結果】

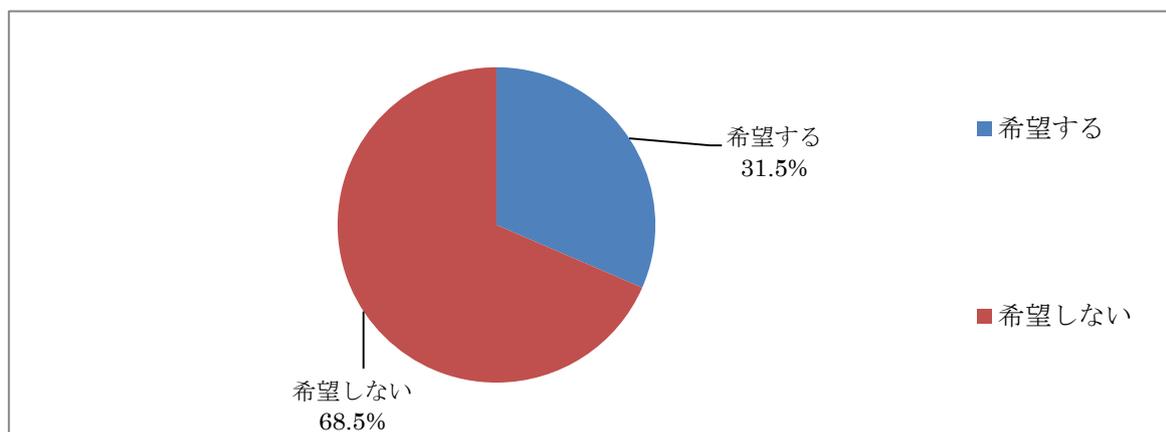
回答数は全体の7割弱となるが、そのうち「希望しない」と答えた人が7割弱となった。理由の内容としては「離農予定」「必要性を感じない」「お金がかかる」「ほ場整備された場合、現在の農機具では対応できないが、購入もできない」「すでにほ場整備済」との回答が多くあり、また、「ほ場整備自体がどういったことなのかが分からない」という意見も多くあった。

また、地域で意見がまとまらない、農業施策が不安で希望が持てないという意見もあった。

希望する理由としては、「作業効率の向上」「コスト削減」「水路・農道の整備」が多く聞かれた。

どちらの意見としても「高齢化、後継者がいない為」との答えがあり、希望しない人は「将来やらない為」と答え、希望する人は「将来耕作する人が耕作しやすいように、委託に出す際に有利になるのでは」と、同じ理由でも意見が分かれた。

回答	人数	割合
希望する	358	31.51%
希望しない	778	68.49%
合計	1136	



7. 担い手について

問 9 担い手確保や育成に必要だと思うものをお答えください。(優先度の高い順3つまで)

-
- 1 位「企業的な経営手法の指導や法人化の推進」
2 位「農業後継者やUターン者への支援」
3 位「農業技術指導の向上」
-

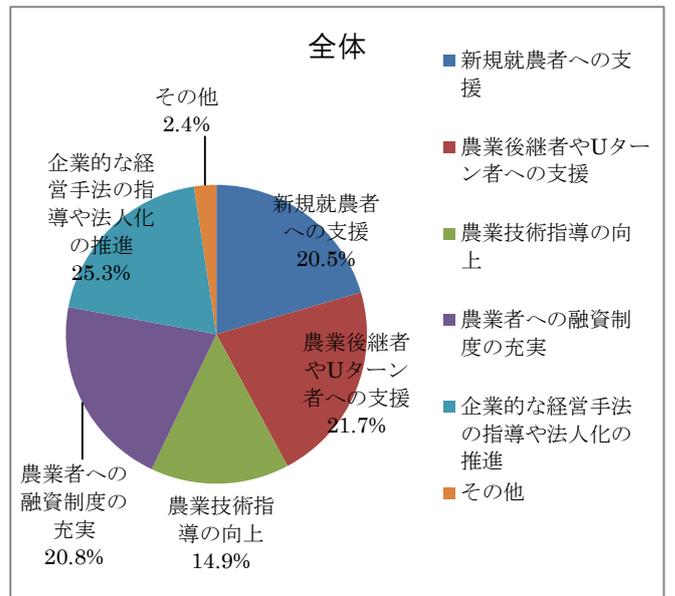
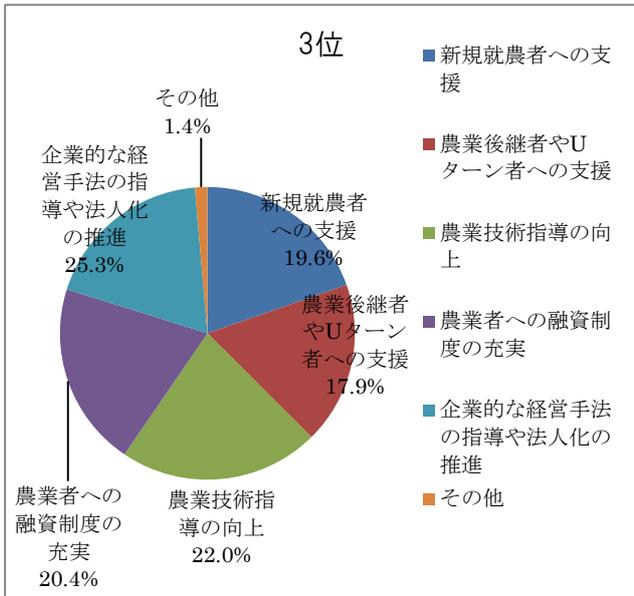
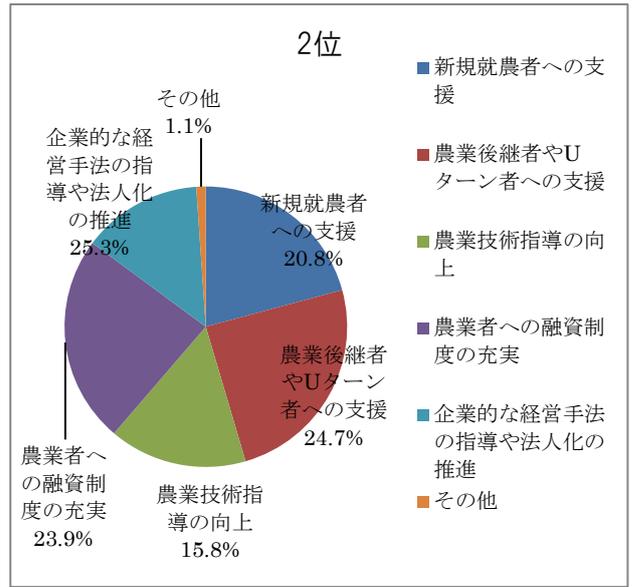
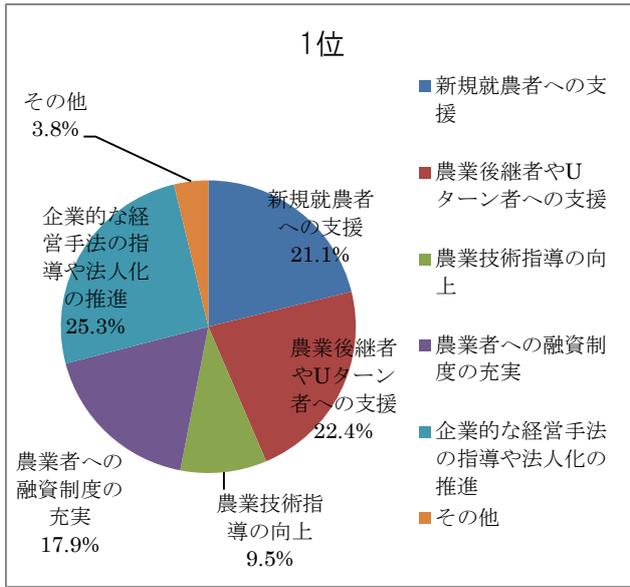
【全体結果】

優先度の高い順3位まで回答を求めたところ、上記のとおりであったが、どの答えも大きく差はなかった。「農業技術指導の向上」を3位であげる人が多くあったが、回答数自体は「その他」を除くと最も少なく、それ以外の回答数はどれも600代であった。

回答	回答数 全体	割合
新規就農者への支援	625	20.5%
農業後継者やUターン者への支援	662	21.7%
農業技術指導の向上	455	14.9%
農業者への融資制度の充実	636	20.8%
企業的な経営手法の指導や法人化の推進	601	19.7%
その他	73	2.4%
合計	3,052	

順位

回答	1位		2位		3位		優先度不明	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
新規就農者への支援	214	7.0%	192	6.3%	159	5.2%	60	2.0%
農業後継者やUターン者への支援	227	7.4%	228	7.5%	145	4.8%	62	2.0%
農業技術指導の向上	96	3.1%	146	4.8%	178	5.8%	35	1.1%
農業者への融資制度の充実	181	5.9%	221	7.2%	165	5.4%	69	2.3%
企業的な経営手法の指導や法人化の推進	256	8.4%	127	4.2%	152	5.0%	66	2.2%
その他	38	1.2%	10	0.3%	11	0.4%	14	0.5%



その他回答

・労働に見合った対価、安定した収入、休日の確保
・離農者への支援の充実
・農業機械、資材の低価格化
・販路（輸出）の開拓、指導
・土地改良費の減額
・わからない
・農作業へのイメージを良くする
・鳥獣による被害対策
・行政が関与しても効果は薄い
・現状で良い
・小規模農業者でも名義変更、売買等を可能にする
・生産物（米・野菜）の価格向上
・契約栽培のススメ
・農地を大きくすること
・スマート農業への推進
・助成金等の条件緩和、枠の拡大、給付金の創設・アメリカ、ヨーロッパ並みの補助金支給
・JAの役割を見直す。商社化するだけでなく農業の指導、方向性、農家の安定化、収入増加の相談等真剣になって考えるべきである
・農家に農協が介入しすぎている。もっとオープンに行政（国・県・市）と農家が直結できると良い
・まず地元の営農者に協力を考える→不可の場合は起業化を法人又は市の農政の課題にすべき事と思う
・農業政策の安定化と将来展望の確立が最優先
・適正な生産価格の設定、自由競争に左右されない国食を守る
・長期的な農業支援
・五泉市で4～6の法人化（1か2でも・・・これはむりかな）
・認定農業者への支援その他
・今後は部落営農への転換が必要と思う
・市・JA・他で新規会社
・人口減で全ての業種で人手不足。どうしようもないことは考えないこと。
・生産販売する力を考える
・市で有休農地を預かってシルバーを利用して草刈等の管理をする
・もうかる農業の実践
・利益のある経営基盤と組織的な経営（魅力的な農業の構築）
・農業者の経営センスにつける。見通しがなければ離農すれば良いのであって、経営は自己責任の世界。

8. 農業施策について

問 10 五泉市の農業施策について要望することをお答えください。(複数回答可3つまで)

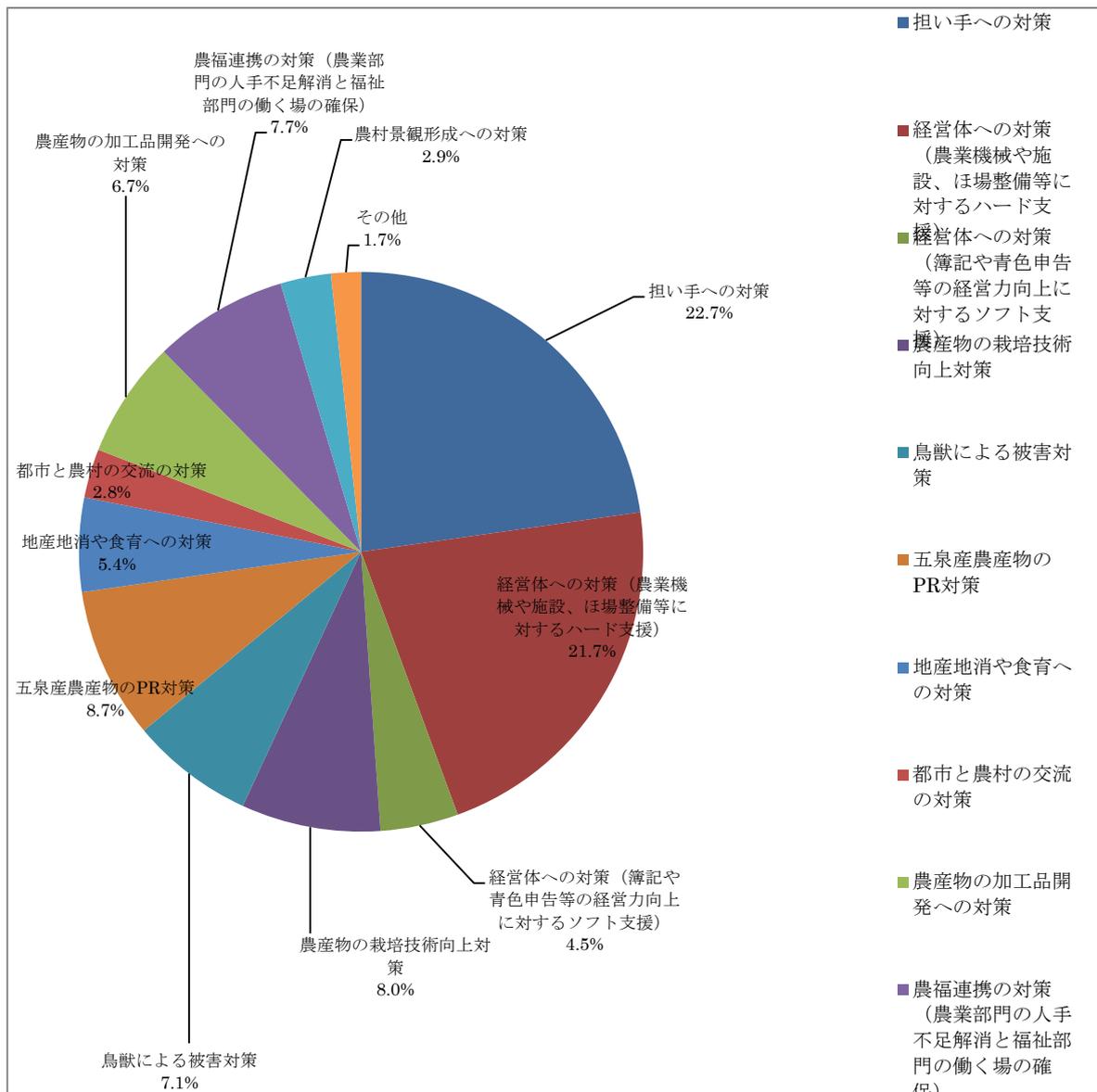
「担い手への対策」「経営体へのハード支援対策」でほぼ半数

【全体結果】

1位「担い手への対策」、2位「経営体への対策（農業機械や施設、ほ場整備等に対するハード支援）」、3位「五泉産農産物のPR対策」、4位「農産物の栽培技術向上対策」、5位「農福連携の対策」となった。

そのうち、1位、2位がほぼ同数であり、合すると約半数となる。3位以下と大きく回答数が離れた。

回答	人数	割合
担い手への対策	692	22.7%
経営体への対策(農業機械や施設、ほ場整備等に対するハード支援)	660	21.7%
経営体への対策(簿記や青色申告等の経営力向上に対するソフト支援)	136	4.5%
農産物の栽培技術向上対策	243	8.0%
鳥獣による被害対策	216	7.1%
五泉産農産物のPR対策	265	8.7%
地産地消や食育への対策	165	5.4%
都市と農村の交流の対策	86	2.8%
農産物の加工品開発への対策	205	6.7%
農福連携の対策(農業部門の人手不足解消と福祉部門の働く場の確保)	235	7.7%
農村景観形成への対策	88	2.9%
その他	52	1.7%
	3,043	



その他意見

・集落営農手法の指導
・中小規模農家への支援・指導
・山間地域への対策、転作推進活動対策補助金の継続
・米粒の大きさより食味重視に変える
・農作物の販売への支援、販路拡大支援
・減・減栽培やエコファーマーの取組に対するメリット
・過保護農政を改めれば農家は自立し、農業は活性化する。過保護的施策は農業者の自立につながらないので慎重に。
市が農地の買い手・売り手となる制度を研究したらどうか。担い手対策・耕作放棄地問題の解消の一助になるのでは。
・小型のライスセンターを作る。

・個人でも継続可能な農業。
・収穫期の人材派遣
・案内等必要として居ない農家組合員の把握をして経費の削減をする
・農業者の考えをしっかりと知ってから施策を考えてほしい
・市とJAが一体となって農地の活用をどうしていくか、作付け放置が出ないような取組の強化
・入り組んだ水利設備の統一管理(田)など、50年、100年計画を組んで景観、設備、人材の総合計画を立てる。
・経営体へのハード支援
・農地買上制度
・小規模農家対策、後継者不在対策
・就農人口が減少する中、意欲ある人が規模拡大するためにも圃場整備は必要と考える
・農業部門の会社の成立
・市主体で井戸を掘りネラルウォーターを生産販売する会社を設立する
・自治体による農産物販売の支援(直売所、市場の整備)
・農業資材の低価格化
・必要地区への風対策。鳥獣対策。
・百年後も見据えた施策に金を使ってほしい
・担い手・・・特に地域における集落営農や法人営農に対しての助言や相談窓口になり将来の五泉農業の基礎を作って欲しい。
・農家組合等の合併
・地方の人口を確保するには大規模化でなく兼業農家を守るべき。
・各施策に対しては国や県からの事業(補助金を含め)しっかりと支援を獲得してほしい。
・休耕田の負担が大きい。農地の売却又は有効利用。
・今の公的な農業支援は小農切り捨ての方向です。よって私みたいな兼業農家には今後の農業振興施策にはまったく期待していません。
・障害者支援対策の充実
・基本農林課は必要なし。現在の農業になった原因は農業に対するあなたがたの能力がないため。個人情報盗み見する人が居ることがそもそも問題。そんな人たちに農業をデザインしてもらいたくない、しない方がいきいきと農業ができる。農林課は解体すべし！！
・農産物だけでなく、五泉市全体での地域の魅力づくり
・平成30年度は用水が無く、穂肥、除草剤が無駄になりました。米の品質、量も減少。土地改良費(用水使用料)全額納めました。水を使用しないのにお金だけ取るのはどうかと思います。(今年度の対策もなし。温暖化が進んでいるのに。)
・売り込んでいける農産物の育成と販路拡大の支援
・農業者の収入の向上が望めればもっと活気が出てくると思う。現場の声を聞く。
・提出書類の簡略化
・市の農業委員会でもっと積極的に借り手を紹介するか、情報を流すかしてもらいたいです。

・農地の条件が悪い所への助成金を出すとかすればもっと多くの借り手がいるかも。
・農業を起業経営として実施する営農者の育成
・所得の補償
・6次産業への支援(特に新規生産)
・米価を上げる。
・将来貸しての増加に伴い、受け手の確保が困難となる状況の中、農地中間管理事業の一層の対策強化を望む。
・問題は大半を占める小、中規模農家の淘汰の傾向をどう考えるかで、大きな農家が優先されるのであれば必然的に農村携帯は崩壊していく。グローバル化は淘汰を加速し資本による格差を作っていく。国は農産物の輸出を強調するが、全体量からすれば微々たるもので、国土保全、環境維持の崩壊は足元まで来ていると思う。市は自治体として「食」に対する多方面にわたる考え方を確立する必要があると思う。
・法人だけでなく個人への指導、支援を切に願う。
・五泉市内でも農産物の差別化販売。
・小規模農家に対する各種支援・集落営農の推進
・農業法人による安定した農業経営立上げ
・人口減で全ての業種で人出不足。企業が経営しないと耕作する人は激減し、衰退する。
・農地について、作付け放棄や今後作付けをやめる又は農業をやめたい農家の農地を国が買い取り法人や企業に転売する仕組みの構築。個人経営では安易な米作で生活できない。兼業農家に農地は足枷。
・現状の少子高齢化が総合計画の実態と合致していない感じがする。もっと連携して政策の抜本的対策の具体化(制度の見直しなど法整備の充実を)
・世代が変わり離農せざるをえない人の為の案内が欲しい。このアンケートの趣旨と異なるだろうが、そういった人や家庭が増えていると思う。
・荒廃農地対策
・土地を換算できるので持ち株方式で流通性を考える事も一つの案と思う。土地を引き続き守意義(緑乃用水、水、土地)今の若い人達にはないし、土改、税金のみ支払い会社で嫁いで払っている現状をもっと公に考えてもらいたい
・農業者に対する柔軟な対応(法の改変など)
・儲かる農産品(特産品)の開発育成(五泉オリジナル品)
・土地改良区費の撤廃等の経費負担、農機具費の負担の軽減
3Kからの脱却、定期的(月々)の収入制度(企業も人手不足 日金が必要な時代 年1の収入では後継者は望めない)

Ⅲ 調査票様式

農業振興に関するアンケート調査について（お願い）

平素より農林業行政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、2015年農林業センサスによりますと、五泉市の基幹的農業従事者の平均年齢は67歳となっており、年齢別の構成で見ると65歳以上の占める割合は64.7%となっております。このように、農家の高齢化が進み担い手不足の現状を考えますと、今後、耕作放棄地の増加などによる地域農業の衰退が懸念されます。

そこで、市内農業者の現状や5年後10年後といった近い将来、ご自身の農業経営をどのようにしていきたいと考えているか意向を把握するため、「農業振興に関するアンケート調査」を実施することといたしました。

この調査結果は、五泉市のこれからの農業のあり方や農業振興施策に関する基礎資料として活用させていただきます。

お忙しいところ、たいへんお手数をおかけしますが、アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成31年2月8日

五泉市長 伊藤勝美

- 1 アンケート調査対象者
農家組合に加入している世帯

回答に要する時間は
5分程度です

- 2 アンケート提出方法

(1) と (2) どちらかの方法で提出願います。

- (1) 農家組合長を通じて提出

平成31年3月8日（金）までに同封の返信用封筒に入れて、農家組合長に提出してください。

- (2) 返信用封筒に入れて郵送

平成31年3月8日（金）までに同封の返信用封筒に入れて、投函してください。

- 3 個人情報について

「農業振興アンケート調査」で収集したデータは、国・県・市等が行う農業施策に活用し、それ以外には活用しません。

また、五泉市個人情報保護条例に基づき、適切に取り扱います。



【将来の農業経営の意向について】

問6 あなたは、自分の農業経営を将来どのようにしたいと考えていますか。
また、その時期はいつ頃を予定していますか。

- 規模拡大したい ⇒ (□1~3年後、□5年程先、□10年程先、□未定) (問7へ)
- 規模縮小したい ⇒ (□1~3年後、□5年程先、□10年程先、□未定) (問9へ)
- 離農したい ⇒ (□1~3年後、□5年程先、□10年程先、□未定) (問9へ)
- 現状維持 (問8へ)
- 分からない (問8へ)
- その他 (問9へ)

【規模拡大について】

問7 規模拡大をするための方法についてお答えください。

- 農地を買いたい (希望購入単価 万円/10a)
- 農地を借りたい (希望小作料 万円/10a)

【ほ場整備について】

問8 あなたは、ほ場整備を行いたいと考えていますか。

- 希望する ⇒ 理由
- 希望しない ⇒ 理由

【担い手について】

問9 担い手確保や育成に必要なと思うものをお答えください。(優先度の高い順に3つまで)

- 新規就農者への支援
- 農業後継者やUターン者への支援
- 農業技術指導の向上
- 農業者への融資制度の充実
- 企業的な経営手法の指導や法人化の推進
- その他



【農業施策について】

問10 五泉市の農業施策について要望することをお答えください。(複数回答可3つまで)

- 担い手への対策
- 経営体への対策 (農業機械や施設、ほ場整備等に対するハード支援)
- 経営体への対策 (簿記や青色申告等の経営力向上に対するソフト支援)
- 農産物の栽培技術向上対策
- 鳥獣による被害対策
- 五泉産農産物のPR対策
- 地産地消や食育への対策
- 都市と農村の交流の対策
- 農産物の加工品開発への対策
- 農福連携の対策 (農業部門の人手不足解消と福祉部門の働く場の確保)
- 農村景観形成への対策
- その他

ご協力ありがとうございました